

第16回群馬小児がん研究会抄録

日 時：平成 20 年 2 月 22 日 (金)

会 場：前橋商工会議所会館 Lily の間

当番幹事：大島 幸雄 (群馬県済生会前橋病院 小児科)

〈特別講演〉

座長：大島 幸雄 (群馬県済生会前橋病院 小児科)

「RAS 変異と奇形症候群」

青木 洋子先生 (東北大学大学院医学系
研究科遺伝病学分野 准教授)

〈一般演題〉

座長：高橋 篤 (群馬大院・医・病態総合外科)

1. 術前診断と治療に苦慮している 3 歳児 Infantile Hemangioendothelioma of the Liver の一例

山本 英輝, 土岐 文彰, 西 明
黒岩 実, 鈴木 則夫
(群馬県立小児医療センター外科)
朴 明子, 外松 学 (同 血液腫瘍科)
畠山 信逸 (同 放射線科)
平戸 純子 (群馬大院・医・病態病理学)

症例は 3 歳女児。上気道炎症状のため近医受診した際、腹部腫瘍を指摘された。前医にて肝腫瘍が疑われ当科紹介。腫瘍マーカーは AFP, PIVKA II ともに陰性。腹部 MRI で肝原発腫瘍、もしくは胃原発腫瘍およびその肝転移を疑われ生検目的に開腹した。腫瘍は肝左葉が中心で、右葉表面にも腫瘍を認めた。病理診断は infantile hemangioendothelioma であり、悪性像は認めなかった。腫瘍は大きいものの悪性ではないため外来経過観察としたが、退院後約 10 日で腫瘍の急激な増大を認め再入院した。現在ステロイドと抗ガン剤治療、放射線照射を開始したところであるが、肝両葉に及ぶ巨大病変であり、また予後不良と考えられることから肝移植も考慮している。

2. 治療終了 20 年後に小網原発 GIST を発症した肝芽腫の 1 例

矢島 玲奈, 斎藤 加奈, 高橋 篤
鈴木 秀樹, 藍原 龍介, 持木 彫人
桑野 博行 (群馬大院・医・病態総合外科)

症例は 22 歳男性。生後 3 ヶ月で肝芽腫に対し肝右葉切除術を施行。化学療法 1/2 James 9 ヶ月間行うも、1 歳 2 ヶ月で両肺転移を認め、楔状切除術施行した。術後 3/4A1 (-CDDP) へ変更し 8 クール施行、3 歳まで James 7 ヶ月間施行した。平成 19 年の CT にて、肝左葉外側と胃小弯に接する部位に径 3 cm の腫瘍を認めた。術中所見では腫瘍は小網に存在し、腫瘍摘出術を行った。免疫染色にて c-kit, CD34 陽性であり小網発生 GIST と診断された。小網発生 GIST は非常に少なく本邦では 4 例目である。また GIST の発症年齢の平均は 63 歳で、若年発症という点でも極めて稀な症例である。若年性 GIST では c-kit 遺伝子変異の陽性率が低く、異なる発生機序も示唆されている。本症例は c-kit 遺伝子異常を認めたが、肝芽腫と抗がん剤治療歴があり、GIST 発生の起因となっている可能性も考えられ、貴重な症例であり、文献的考察をふまえて報告する。

座長：外松 学 (群馬県立小児医療センター
血液腫瘍科)

3. 化学療法を受けている思春期の患児との関わり

佐々木美香, 堀越 和代, 杉浦ひろみ
(富士重工業健康保険組合総合太田病院
本館 4 階)

卵巣腫瘍手術後に肺転移を認め、化学療法で長期入院中の 13 歳の女児。性格は我慢強く、明るく活動的である。今回の入院は、化学療法を 4 クール予定されていた。第 1, 第 2 クールでは、副作用による嘔気が強く内服の拒否が時々みられていた。第 3 クールに入ると内服の拒否に加え、不満な言動や時々涙する姿がみられ、自己の感情を強く表出するようになった。そこで、プライマリナーズと患児の間で「今、辛いと感じていること」につい